

## UN Women と オランダ政府共催のシリア女性会議、 来るべき和平交渉への強い勧告を採択して閉幕

(1月14日、ジュネーブ発) シリアの和平交渉への女性の参画と発言を支援する会議がUN Women とオランダ政府の共催で2日間にわたってジュネーブで行われ、今日、シリア市民社会の女性および活動家が声明を出して閉幕した。

最終声明は、すべての当事者が意見の相違を乗り越えて、自由で多元的かつ民主的なシリアの実現に向けて合意できるような政治プロセスを支援することを求めている。そしてシリアが、男女平等と人権を尊重し、意思決定者が国の将来を形作るあらゆる事柄に女性が政治参画できる権利を重んずる国家になることを目指している。

「我々はシリアに関する出来事—毎日繰り返される死、壊滅的な破壊、飢餓、膨大な数にのぼる家族の強制移動（シリア国内外）、恐怖、暴力、拘留、誘拐、インフラ破壊の広がり、病気、特に子供の病気の蔓延—に黙ってははいられない」とサバ・アルハラック氏は述べた。彼女は、ケファア・アリ・ディーブ氏、ラフィフ・ジュエジャティ氏、デルシャ・アヨ氏と共に、シリア内外からこの会議に参加した50人の女性によって代表として選ばれて、記者会見に臨んだ。

ブムジレ・ムランボ - ヌクカ UN Women 事務局長は、遠方から大変な危険を冒して出席してくれた参加者に感謝し、「この女性たちは苦しむシリアの人々に安全、権利、尊厳を取り戻せる道を見つけるべく、昼夜を分かたず働いています」と述べた。また「女性たちは、民主主義と人権の尊重に基づいて、持続可能な平和と多元的なシリアの土台を構築していく上で重要な役割を担っています。UN Women は引き続きシリア女性の強力なパートナーとして、政治過程で平和のイニシアティブや集約された女性たちの声を支援していくつもりです」と付け加えた。

この会議はUN Women がシリアの和平構築過程にシリア女性や市民社会を積極的に参加させようとする長期的支援の一環である。UN Women は、また、和平構築の過程に女性の完全な参画と関与を求める国連安全保障理事会決議1325と2122およびジュネーブコミュニケに従って、和平への努力に女性の声や見方を聞き入れ、前進させられるスペースを創り出そうと長年努力している。

国連とアラブ連盟によるシリアのための共同特別代表、ラクダール・ブラヒミ氏は、

シリアに関する「ジュネーブ2」セッションが始まる10日前に開かれた和平会議の開会式に、女性たちと共に参加した。

“「この会議は、交渉のテーブルに着く両当事者に、シリア女性の声を聞き、シリア危機の平和的解決に女性を主役として含めることの大切さを伝えるものだ」とブラヒミ氏はシリア女性市民社会会議の席で語った。

ブラヒミ氏は1月14日に参加者ともう一度会って成果文書を受け取り、シリア女性の結集した疑問点や結論を直接聞く予定である。

オランダのフラン・ティママン外務大臣は、参加者に努力と勇気を称えるメッセージを送り、「シリアの女性たちがシリアの将来は武器を持った人たちだけで決めてはならないことを世界に知らせたことを聞いて、とてもうれしく思います。女性たちは来るべき和平合意を進める上で重要な役割を担っています。だからこそ彼女達の声が必要なのです」と語った。